第 13 回演奏会　G.F. ヘンデル「メサイア」に寄せて／三澤 洋史

～ 飛翔する決意 ～

２０１６年２月に「ロ短調ミサ曲」で１０周年記念演奏会を行った東京バロック・スコラーズは、「２１世紀のバッハ」というプロジェクト名を掲げてまだまだ突っ走る。「どこにもないバッハ」をめざして！

ところが､今度の曲目は「メサイア」である。言うまでもなくバッハではなくヘンデルだ。でもね、この演奏会にいらしてくれた皆さんは、必ずやつぶやくに違いない。

「こんな軽やかで楽しい『メサイア』は聴いたことがない！バッハと全然違う！」

と。

では、東京バロック・スコラーズにとっては、これは寄り道なのだろうか？それとも路線変更なのだろうか？いやいや、決してそんなことはない。ただ振り子のおもりをいつもとは反対側に大きく振っただけだ。振り子は必ず戻ってくる。さらに、一度振られた振り子は、またいつでも反対側に戻れる。曲想に応じて自由自在に、天衣無縫に。これこそ僕が求めていること。

「メサイア」というと、僕は、かつてクリストファー・ホグウッド氏のもとでアシスタントをしていた時、彼から教わった沢山のことが自分の演奏の原点となっている。軽やかさもその要素のひとつだ。それを僕はさらに発展させ、バッハにも活かしたいのだ。それが次の１０年の目標。

このオリジナル楽器全盛時代に、僕があえてモダン楽器で演奏し続けるのは、バロック音楽にあっても、重量感や様々な情感を決して捨てたくないから。同時に、バロック音楽特有の軽やかさにも、もっともっと当団が精通してくれるようになるのが僕の夢。それには最高の技術を求められるのだ。楽器にも歌にも。

そういうわけで、この演奏会が大成功に終わらなければ、僕たちの先の未来は開けてこない。それだけの意気込みで立ち向かっているが、かといって悲壮感はみじんもないのだよ。練習場には笑顔が絶えないし、みんな音楽の軽やかさに身も心も飛翔していく。そして最後には、ヘンデルのあの包み込むような優しさに心底癒やされて家路につく。

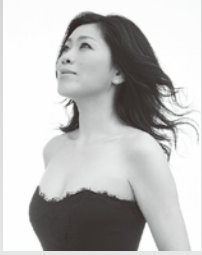
どうです、そんな「メサイア」を、あなたも聴いてみたいと思いませんか？

指揮者／三澤 洋史

国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。２００１年より現在まで新国立劇場合唱団指揮者。１９９９年から２００３年までの５年間、「バイロイト音楽祭」で、祝祭合唱団指導スタッフの一員として従事。２０１１年、文化庁在外研修員として、ミラノ・スカラ座合唱団の音楽作りを研修。

バッハに深く傾倒し、２００６年、自らのバッハ演奏のホームグランドとして東京バロック・スコラーズを立ち上げた。ここを根拠として「２１世紀のバッハ」をめざして多角的な活動を行っている。CD モテット集は、雑誌「レコード芸術」で準特選に選ばれ、話題を呼んだ。著書に「オペラ座のお仕事」（早川書房）がある。

MESSIAH メサイア



ソプラノ／國光 ともこ

アルト／加納 悦子

テノール／畑 儀文

バス／大森 いちえい

合唱：東京バロック・スコラーズ
管弦楽：東京バロック・スコラーズ・アンサンブル

三澤洋史のもとで「21世紀のバッハ」を追求しようという志を共有する合唱団と管弦楽団。合唱団はオーディションによって選ばれたアマチュア、アンサンブルは一流のプロ奏者からなる。
演奏のみならず、公開レッスンや講演会など多角的な活動を行っている。また、バッハを愛好する個人や団体とのネットワークを広げ、バッハ探求のセンターとなることを目指している。

「団員募集 ── バッハを一緒に歌いませんか？」

東京バロック・スコラーズでは、毎回演奏会終了後に、一緒にバッハを楽しみ、ステージを作り上げていく仲間を募集しています。次の入団オーディション予定日については、決まり次第ホームページのオーディションページに掲載いたします。

演奏会会場

すみだトリフォニーホール

JR・東京メトロ半蔵門線「錦糸町」より徒歩５分

講演会会場

求道会館

東京メトロ南北線「東大前」より徒歩５分
都営大江戸線「本郷三丁目」より徒歩15分
東京メトロ丸の内線「本郷三丁目」より徒歩15分